

第7回 予算決算委員会

令和5年8月29日(火) 5階 議場	開会 10時40分 閉会 10時58分
-----------------------	------------------------

午前10時40分 開会

○委員長（奥村一仁君）

ただ今から、令和5年第7回予算決算委員会を開催します。

上着の着脱は本会議と同様、自由といたしますので、よろしくお願いします。

それでは、これより本委員会に付託されました議案の審査を行います。

○委員長（奥村一仁君）

議第80号 令和5年度瑞浪市一般会計補正予算（第8号）を議題といたします。

なお、説明後の質疑にあたっては、一度に複数の質疑は行わず、一問ごとに簡潔な発言をお願いいたします。

本案について、執行部の補足説明を求めます。

初めに、総務課長 近藤正史君。

○総務課長（近藤正史君）

それでは、議第80号 令和5年度瑞浪市一般会計補正予算（第8号）のうち、総務課所管分につきまして、議案集は1ページからですが、別冊の令和5年度補正予算説明書一般会計補正予算（第8号）にて説明をさせていただきます。

3ページをお願いいたします。

歳入でございます。歳入のうち、総務課が所管する一般財源について説明いたします。

20款、1項、1目 繰越金です。前年度繰越金を2,440万円増額し、補正後の予算額を1億4,050万円とするものです。

今回の補正予算に必要な一般財源として充てるものでございます。

以上、総務課所管分の説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○委員長（奥村一仁君）

ご苦労様でした。

ただ今の説明に対して、質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

特にないようですので、質疑を終結いたします。

○委員長（奥村一仁君）

次に、クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

それでは、クリーンセンター所管分の一般会計補正予算（第8号）についてご説明いたします。
補正予算説明書の4ページをお願いいたします。

4款 衛生費、2項 清掃費、2目 塵芥処理費を2億4,400万円増額しまして、補正後の額を9億8,855万1,000円とするものです。

説明欄をお願いします。

混合焼却施設設備改修事業2億4,400万円の増額は、クリーンセンター焼却炉の酸素製造装置の急激な機能低下により、焼却炉に供給している炭素濃度が下がってきていることから、今後の焼却処理が安定的かつ安全に運用できなくなる恐れがあるため、緊急での酸素製造装置の設備更新工事を行う工事請負費となります。

主な費用は、高濃度酸素を生成させる設備関連費が約1億6,000万円とその施工費、約3,000万円などとなります。

補正額の財源内訳については、特定財源、地方債の混合焼却施設設備改修事業債2億1,960万円を充てます。

以上、クリーンセンターの補正予算の説明とさせていただきます。ご審議のほど、よろしく願いいたします。

○委員長（奥村一仁君）

ご苦勞様でした。

ただ今の説明に対して、質疑はありませんか。

12番 成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

この酸素製造装置というのを、装置をまるきり替えるということですか。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

そちらの装置の更新工事をしますので、まるっと替えるものになります。

○委員長（奥村一仁君）

12番 成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

まるっと替えるということは、焼却炉を一回止めないかんと思うんだけど、それは何日ぐらいかかるの。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

施工業者との相談の中で、2週間程度を想定しております。

○委員長（奥村一仁君）

11番 小木曾光佐子君。

○11番（小木曾光佐子君）

今、施設を全部丸ごと替えるというお話でしたが、この資料によると、今、60%まで下がったものを90%まで上げるということでしたけど、新しく替えても100%にはならないんですか。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

もともとのこの焼却炉の焼却の方法とといいますか、この施設自体が高濃度の酸素を使って温度を上げて、高温で熱することによってごみを処分すると。熔融炉方式を使っております。そちらのものについては、通常の酸素ですと、やっぱり空気中に出す酸素の20%程度のものを、この機械を使うことによって高濃度酸素という状況の約90%、気体の中に90%酸素が入った状態で燃焼させるというシステムですので、90%というのがほぼ通常の酸素濃度になります。

ですので、100%というふうではございませんので、よろしく願いいたします。

○委員長（奥村一仁君）

16番 柴田増三君。

○16番（柴田増三君）

ちなみにこれ、今まで一遍もメンテナンスをしてなくて、耐用年数そのものが大体21年もつということか。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

基本的には、委員ご指摘のとおり、やっぱり20年程度で替えなければいけないというものになります。

今回、補正をお願いをしておりますが、当初の予定ですと、令和6年から大規模改修というところで対応する予定ではありましたが、数値が思っていたよりも下がりましたので、補正対応で、焼却炉が止まるということは避けたいので、緊急の更新工事ということでお願いをさせていただいております。

○委員長（奥村一仁君）

8番 樋田翔太君。

○8番（樋田翔太君）

これに並行して、ごみ出しとかしますよね。市民生活への影響はどうか。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

ごみ出し等は、予定どおり回収はさせていただいて、炉を2週間程度止めることによって、ストックヤードがございまして、そちらの中でためておきながら、試運転をしながらまた、焼却炉を動かしながらごみを処理していきますので、市民生活には影響はございません。

○委員長（奥村一仁君）

13番 榛葉利広君。

○13番（榛葉利広君）

うちのクリーンセンターは2炉体制で、交互に使うやり方やと思ったんですけど、酸素発生装置、これは一つでいいわけですか。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

委員おっしゃるとおり、製造装置があって、そこから枝分かれして2炉に行っておりますので、機械は1個で2炉分対応しております。

○委員長（奥村一仁君）

12番 成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

酸素がなくても炉は使えるということ。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

酸素がないと火が燃えません。濃度が下がってくると当然、温度も下がってきますので、メーカーさんに協議はしておるんですが、何パーセントになったら止まるとかっていうところのデータがないものですから、今の状況でもいつ止まるか分からないという状況ですので、今回、補正で上げさせていただいたという状況ですので、ご理解をお願いします。

○委員長（奥村一仁君）

5番 柴田幸一郎君。

○5番（柴田幸一郎君）

突然壊れたということなんですけども、何か原因があって壊れたのか、それとも、20年か21年使ったので、もうボロボロになって壊れたのか、そういう、何か原因が分かるならば教えていただけませんか。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

メーカーの話ですと、やはり年数的に20年越してきていますので、性能自体がやっぱり落ちてきている。

ただ、想定よりも早く数値が下がってきていますので、今回の補正ということですので、あくまで限界が来ているという認識です。

今回替えることによって、また20年近くはもつとっております。

○委員長（奥村一仁君）

7番 辻 正之君。

○7番（辻 正之君）

この高濃度酸素の使用ということですが、この高濃度酸素を蓄えておくタンク、高圧タンクとか、そういうものは使用して、そこにたくさん酸素を蓄えていくという方法で使ってみえるのかどうかをお聞きしたいんですけど。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

基本は高濃度酸素ですと、引火性が強くて危険なものですので、ストックとかではなく、その都度、製造しながら燃焼に送っておりますので、どこかにためておいてというものではございません。

○委員長（奥村一仁君）

16番 柴田増三君。

○16番（柴田増三君）

そもそも酸素供給というか、酸素を作る仕組みは分岐からおそらく取り出してやっとなるやつと思って、圧縮かなんかかけて。そもそも仕組みというのはどういう仕組みなんですかね。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

大まかな説明ですが、空気中には酸素が大体20%と窒素が約80%弱が主な構成なんですけど、その中の窒素を取り込むことによって、酸素を増やしていく。空気を送りながら窒素をどんどん取り除いていって、その機械は、酸素をどんどん増やして、高濃度にしていって、送っていくという流れだそうなんです。その機械で取った窒素は当然また大気に排出をしていきながら、酸素を入れていくとそこに窒素がたまって、どんどん酸素濃度が上がっていって、ある程度のところでその経路を通過して焼却炉に酸素を送っているという仕組みだそうです。

○委員長（奥村一仁君）

8番 樋田翔太君。

○8番（樋田翔太君）

炉の温度は下がらないかなと思って、そうすると、ダイオキシンとか有害物質の発生についてはどういう見解でしょうか。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

今のところは、当然、炉の温度が下がることによって、焼却の効率が下がりますし、温度が下がることに対してということがありますが、そのところは燃やしたダストですとか、排ガスについては、また別のフィルターがございますので、そこを通過して無害化して、大気に放出をしております。

温度が下がることについては、今、ご指摘があったのは、酸素が低くなって、LPガスを通常よりも多めに入れるようなことで、温度を保ちながら今の焼却をしております。それで問題はございません。

○委員長（奥村一仁君）

6番 三輪田幸泰君。

○6番（三輪田幸泰君）

これを機会にというと、皆さんの持ち込みの量というのも少なからず減量してもらうようなキャンペーンみたいなものを打ってもらえれば、また一つ、ものが少なくなれば、その分が減るというイメージなので、少しでも減らしていくというきっかけになっていただければ良いと思いますが、そこら辺考えておられますか。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

今の通常の量でも当然、処分ができるという想定で準備はしておりますが、今、委員がおっしゃっていただいた意見も当然貴重な意見ですので、ごみの減量というところも踏まえてやってはおりますが、今回、こういったこともあるのでということを知りたいと考えています。

○委員長（奥村一仁君）

1番 福永泰子君。

○1番（福永泰子君）

先ほど、令和6年の大規模改修の前にもうちょっと間に合わない、今のままでは停止するおそれがあるということで、今回、更新工事を行われるということですが、更新工事、先ほど言った、まるっと替えられるというお話だし、新規の酸素装置を替えてしまわれるというふうに受け取ったんですが。

緊急であれば、例えば、何か部品を交換すればいいとか、そういう手だてが全くない状態で、今回もこの新品を入れるしかないという手段のもとでこれだけの予算を使っていられるのか、ほかにも手だてがあるけれども、先に令和6年の大改修の前にこちらをやっておいたほうが効果的にいいとかということ。これ一たん換えて20年を超えてもつ、長いことこの炉を使われるということ前提で付け替えるというふうになると思うんですが、それも含めて、先々のことまで含めた上で、今回この酸素製造装置は新品のものに更新されるという選択をされたのか、ほかには選択肢はなかった

のかということをお答えいただきたいんですが。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

今ご指摘いただいた炉の20年ですが、20年というのは、あくまで今、20年使ってきてこの状況なので、20年程度はもつであろうという推測の中の話ではあるんですが、今、一番いい選択としては、やはりメーカーさんとも相談する中では、今のものを更新をかけて新しくする。全部まるっと入れ替えるということではないです。そのもの自体の更新をすることによって、20年程度また使えるようにするのが一番コスト的にも、安全面、当然、ある程度、実験をしてきてる中で実用化されたものですので、このものに替える別の方法というものが具体的に選択肢がない状況ですので、そういったところで対応していただくというふうで、今回、上程させていただいております。

そういった検討をされた上で、こちらの方法が一番ベストだというふうに考えています。

○委員長（奥村一仁君）

ほかにありませんか。

12番 成瀬徳夫君。

○12番（成瀬徳夫君）

この間ちょっと、あるところへ視察に行ったんですよ。やはり一つは30年ということで、20年たったら次のことを考えて、10年かけて次のことを考えられて、新しく作られたみたいなんだけど、実際にあと10年というのが、これは今の酸素製造装置は20年もつかもしれんけど、先ほどの話。

それが、ほかのところが悪れていったら、もう全然だめになってしまうんだけど、その辺というのはまだ分らんかね。

○委員長（奥村一仁君）

クリーンセンター所長 三浦正二郎君。

○クリーンセンター所長（三浦正二郎君）

幅が広がってしまうんですが、今、3市の広域化というところも視野に入れながら、なかなか1市だけでごみ焼却施設を維持していく、また、新たに立て直すというところも、費用的に厳しいところもございます。今の広域化というところも、3市の話し合いの中では前向きな検討がなされておりますので、そういったところで、今後暫定的にできるというところまでは進んでいないですが、一応、やる方向で検討を今している段階ですので、今後、焼却炉を作る場合にはそういったところも選択肢の一つとして話し合いながら進めていきますので、ご理解いただければと思います。

○委員長（奥村一仁君）

ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

ほかに発言もないようですので、質疑を終結いたします。

○委員長（奥村一仁君）

これより討論を行います。

討論はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

別段発言もないようですので、討論を終結いたします。

これより採決を行います。

お諮りします。

議第80号 令和5年度瑞浪市一般会計補正予算（第8号）は、原案のとおり決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

異議なしと認めます。

したがって、議第80号は、原案のとおり可決されました。

○委員長（奥村一仁君）

以上で、本委員会に付託された議案の審査は、全て終了いたしました。

審査結果の委員長報告につきましては、委員長に一任願います。

これをもちまして、令和5年第7回予算決算委員会を閉会いたします。

ご苦勞様でした。

午前10時58分 閉会